

令和5年度 東京都内湾水生生物調査 10月稚魚調査 速報

●実施状況

令和5年10月13日に稚魚調査を実施した。天気は晴で、気温は22.0～24.6℃、調査地点の風向は北東または東、風速は1.0～3.2mであった。調査当日は大潮で、干潮は10時17分、満潮は16時23分であった(気象庁のデータ)。また、いずれの地点においても赤潮は発生していなかった。

今回の調査では、城南大橋にて魚類は出現しなかった。

	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
作業時刻	8:46-9:47	10:16-11:18	11:54-13:23
水温(℃)	21.6	22.0	22.6
塩分(-)	27.0	15.5	26.6
透視度(cm)	>100	35.0	88.0
DO(mg/L)	4.1	6.1	6.5
DO飽和度(%)	55.2	76.4	87.9
波浪(m)	0.1	0.2	0.1
pH(-)	7.6	7.4	7.8
水の臭気	無臭	無臭	微下水臭
備考		一部干出していたものの、斜面の勾配は大きくなっていた。	

●主な出現種等 (速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	ピリンゴ(c)	出現せず	トウゴロウイワシ(+)
	マハゼ(+)		マゴチ(r)
			クルマサヨリ(r)
			ピリンゴ(r)
魚類以外	ユビナガスジエビ(+)	エビジャコ属(+)	ニホンイサザアミ(G)
	シラタエビ(r)	ニッポンドロソコエビ(r)	クロイサザアミ(m)
	コウロエンカワヒバリガイ(r)	クルマエビ科(r)	シラタエビ(c)
備考	他にユビナガホンヤドカリ、ニッポンドロソコエビ、ドロクダムシ属等が採集された。	他にシオフキ、ヨコエビ類、イトゴカイ科等が採集された。	他にエビジャコ属、シオフキ、ニッポンドロソコエビ等が採集された。

注) 表中の()内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

お台場海浜公園 採取試料



水際数 m で急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。トライアスロン競技会場の設営が行われていた。

●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm

ビリンゴ

マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巢に産卵し、稚魚は成長するにつれて河川上流側に移動する。本来の産卵期は早春であるが、今回、抱卵した個体が採集された。

マハゼ

東京湾を代表するハゼの仲間。河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、冬になると産卵のため深場へ移動する。

ユビナガスジエビ

内湾域の転石場や護岸に多く生息する。体長 4cm 程。体全体に色素が分布し、生きている間は褐色にみえる個体が多い。額角(がっかく)はほぼ水平で、先端上面が下向きになる。

シラタエビ

青く長い触角を持ち、額角がトサカ状に盛り上がる。汽水域を主な生息場とし、干潟にもよく出現する。成熟した個体では、体側に青色斑が現れることが多い。

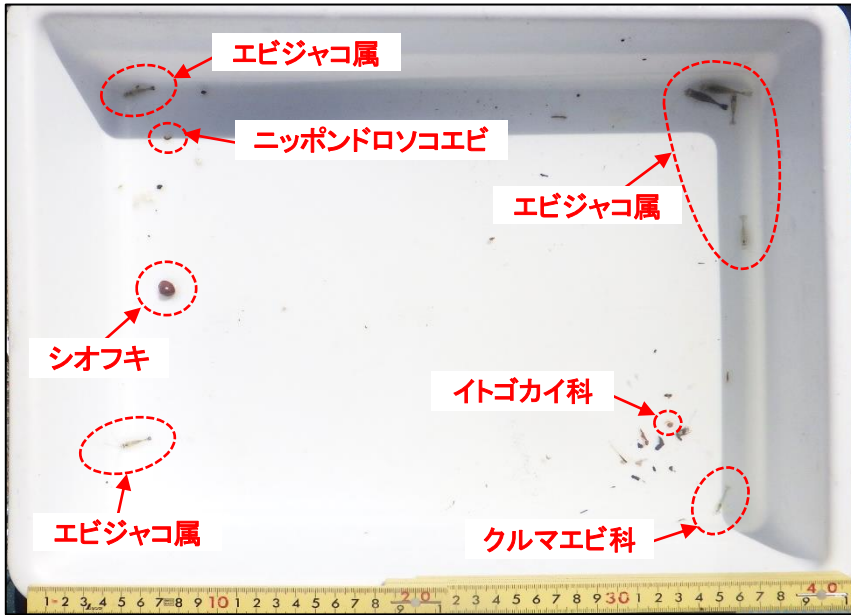
コウロエンカワヒバリガイ

1970年代後半に国内で発見された外来種。東京湾では代表的な付着生物となっている。水質汚濁や塩分の変化に強く、港湾の防波堤や転石等に高密度に付着する。

ユビナガホンヤドカリ

甲長 1cm 程になる。東京湾の干潟では、普通にみられるヤドカリである。潮間帯から浅海域にかけて生息する。「海の掃除屋」的な役割も果たしている。

城南大橋 採取試料



城南大橋西詰めにある干潟。北側には東京港野鳥公園がある。

●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm

エビジャコ属

稚魚等を捕食する小型の甲殻類。内湾の砂泥底に生息し、普段は砂にごく浅く潜って隠れている。環境の変化に敏感に反応して体色を変化させる。今回、抱卵個体が採集された。

ニッポンドロソコエビ

体長1~2cm程になる。砂底や砂泥底の表面近くにトンネルを掘って生活する。主に懸濁物を食べているが、小さな甲殻類を捕食することもある。東京湾では最も普通にみられるヨコエビの一つ。

クルマエビ科

クルマエビ科は水産資源として有用な種が多く、種によって養殖が盛んに行われている。クルマエビ科の産卵はそのまま海中に受精卵を放出する形で行われるため、親エビは脚で卵を抱えることはない。

イトゴカイ科

有機物の多い砂泥底を好む多毛類。イトゴカイ科の仲間は疣足(いぼあし)があまり発達せず、剛毛も小さいなど特徴に乏しいことから、種の同定が難しい。

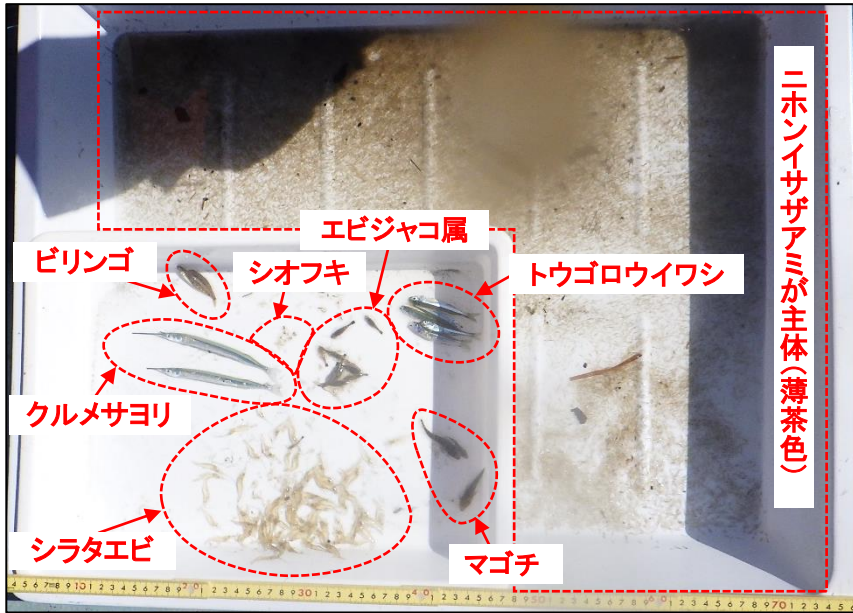
ヨコエビ類

体長1cm程の小型甲殻類。ヨコ「エビ」というが、エビ(十脚目)の仲間ではない(ヨコエビは端脚目)。東京湾でよくみられるヨコエビ類は扁平な体のものが多く、転石上をその平べったい体を横にしてはい回るように動く。

シオフキ

殻長5cm程になる。内湾奥の干潟域等の砂泥底に生息する。殻の色は白色から紫褐色まで変異が多い。

葛西人工渚 採取試料



東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm

トウゴロウイワシ

イワシよりもボラに近い仲間。東京湾では湾奥から外湾にかけての沿岸で普通にみられる。産卵期は夏で、秋にかけて仔魚が東京湾全域に出現する。

ウオノエ科が付着していた。

マゴチ

内湾や河口域の水深 30m 以浅の砂泥底に生息する。産卵期は 4~7 月。成長するにつれて徐々に深場へと移動する。肉食性で、小魚等を食べる。

クルメサヨリ

細長い体に短い上顎と長い下顎を持つ。下顎の先が黒いのが本種の特徴。河口域や内湾に生息し、春~夏に粘着性のある糸で水生植物に絡ませるように産卵する。本地点では昨年 12 月の調査でも出現した。

ヒモハゼ

河口等の干潟域に生息する。体はミズのように細長く、体側には暗色の縦帯が走る。全長 4cm 程。アナジャコ等の甲殻類の巣穴を産卵場や隠れ家として利用する。産卵期は初夏。

ニホンイサザアミ

汽水域に生息するアミの仲間。体長 10mm 程になる。河口付近で春に大量発生し、魚類等の重要な餌となっている。

クロイサザアミ

ニホンイサザアミ同様、汽水域に生息する。体長 15mm 程になる。腹部に黒色斑があり、ニホンイサザアミに比べ黒っぽい体色をしている。